

ぽっかぽか



天間幼稚園
園長だより
第 6 号
令和 4.11.7



「努力のつぼ」に「努力の水」をたくさん注ぎ込みましょう！

日に日に秋が深まり、朝晩は、肌寒く感じられる季節となりましたが、子どもたちは、鬼遊びや相撲遊び、木の実や木の葉を用いた造形遊び、ボトルキャップを利用したミニケーキ作りなどに笑顔いっぱい取り組んでいます。

また、先日は、PTA役員の皆様による秋祭りが実施され、保護者の皆様の提供して下さったおもちやお店、ゲームのお店、ポップコーン屋さん、食育キャラクター「むすびん」との記念撮影など、笑顔いっぱいの1日となりましたことを心から感謝申し上げます。

ご家庭でも、お忙しい中、親子での読み聞かせや運動遊び、おやつ作り、お弁当作りなど、「おやこんぼ」や「ファミリー弁当作り」にご協力いただき、心から嬉しく感じております。

子どもたちの笑顔には不思議な力があります。元気な笑顔と挨拶と目を輝かせて生き生きと取り組む姿を目にして、日々新たな気持ちで教育に当たれることをとても幸せに感じております。

さて、すみれ組の子どもたちは、現在、11月15日(火)実施予定の第32回天間地区七五三奉納相撲大会に向けて、相撲遊びに夢中です。先日まで、ほんの少し押しただけで簡単に押し出されてしまっていた子どもたちも、歯を食いしばって耐えて、逆に押し返し、1分を超える立ち合いになることも見られるようになりました。ばら組やちゅうりっぷ組の子どもたちも、ぽっかぽかのお兄さんお姉さんを声を枯らして応援しています。スイッチの入った子どもたちの心と体の成長の可能性は無限大だなーと強く感じております。

「できるようにになりたい、強くなりしたい」という思いと子どもたちや保護者の皆様、教職員の「いいよ、いいよ、すごい、すごい、がんばれ、がんばれ」という励ましの「ぽかぽか言葉」が、飛躍的な成長を促しているのだと思います。

私は、小学校担任時代に裏面の「努力のつぼ」という話をよくしました。特に、やっっているのにできない、だから自分はダメだとあきらめてしまう子によく話しました。そして、「100」「1,000」ということの大切さについても話しました。何ごとにも100日、また100回やればそれなりになるということ、それでだめなら1,000日、1,000回やれば必ず実現できる、石の上にも3年(365×3=1,095日)は、1,000日を超えた例として話しました。

落語家になりたければ「まず小咄(こぼなし)100覚えろ」と言われること、将棋の世界でも「まず100局指してみろ」と言われること、また、成長曲線と努力曲線を描いて、努力をしてもすぐには成長しないけれど、努力を100日、100回続けることで、急に成長すること、この成長点を『ブレイクスルーポイント』と言うことなどを説明したこともあります。「努力は段階的に重ねる必要があるが、成長は加速度的に訪れる」ということだそうです。

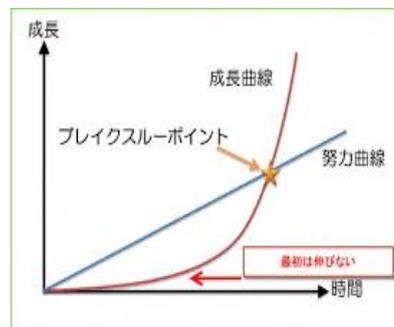
テニスの松岡修造さんは「100回叩けば突破できる壁があっても、99回であきらめてしまう人がある。その人は今までの努力やかけてきた時間が無駄に終わってしまう。」と語っています。

「できる!できる!キミならできる!僕は本気だ!キミは本気か!」松岡修造さんの熱唱する元気応援SONGをご存知でしょうか。

これは、ピグマリオン効果(人は期待に答えようと努力する)を狙っている歌だと思います。

このように、子どもたちのやる気を引き出す話をたくさんして、「あきらめずに努力を積み重ねることが、できるようになること(成功)への一番の近道」であり、あと一步の努力で成功に辿り着ける期待感をもたせて取り組みを応援していきたいと思っております。

保護者の皆様、地域の皆様には、大変お世話になりますが、今後とも本園の教育活動にご理解ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。



努力の壺

「お母さん、努力の壺の話、またして。」

「うん、いいよ。今度はなあに。」

「逆上がり。」

「あらあら、まだいっぱいになっていなかったのね。ずいぶん大きいねえ。」
と言いながら、お母さんは椅子を引いて、私の前に座りました。

そして、もう何回もしてくれた努力の壺の話をゆっくりと始めました。

それはこんな話です。

人が何か始めようとか、今までできなかったことを
やろうと思った時、神様から努力の壺をもらいます。

その壺はいろんな大きさがあって、人によって時
には大きいのもや小さいのもいろいろあります。

そしてその壺は、その人の目には見えないです。

その人が壺の中に一生懸命「努力」を入れていくと、それが少しずつたまって、
いつかその「努力」があふれる時、壺の大きさが分かるというのです。

だから休まずに壺の中に「努力」を入れていけば、
いつか必ずあふれる時が来るのです。

私はこの話が大好きです。

幼稚園の時、初めてお母さんから聞きました。

その時は、横ばしごの練習をしている時でした。

それから一輪車や鉄棒の前回り、跳び箱、竹馬、何でもがんばってやっている
時、お母さんに頼んでこの話をしてもらいます。

くじけそうになった時でも、この話を聞いていると、心の中に大きな壺が見
えてくるような気がします。

そして私の努力がもう少しであふれそうに見えるのです。

だからまたがんばる気持ちになれます。

お母さんの言うとおりに、今度の逆上がりの壺はずいぶん大きいみたいです。

逆上がりを始めてから、もう2回もこの話をしてもらいました。

でも今度こそ、あと少しであふれそうな気がします。

だから明日からまたがんばろうと思います。

お母さんは、「壺が大きいととても大変だけど、
中身がいっぱいあるからあなたのためになるのよ。」

と言ってくれるけど、今度神様にもらう時は、もう
少し小さい壺がいいなあと思います。



朝日作文コンクール「子どもを変えた親の一言」作文25選 小学校1年

これまで、子どもたちに話して聞かせていたにもかかわらず、私自身がどうだったのかと
問われているようにも感じます。そして、いくつになっても、夢に向かって努力していくこ
とが大切であることを教えられているように思います。

ましてや、まだまだお若い保護者の皆様は、夢や希望が近くにあり、もうじき壺の水があ
ふれる時期に来ているのかもしれませんが。皆様には、子どもたちと共に、夢に向かって努力
をし続け、常に輝き続けるすてきな存在でいてほしいと願っています。